

JR連合

第32回定期大会開催



挨拶に立ったJR連合荻山会長

6月14日～15日、JR連合第32回定期大会が都内において開催され、今後の運動方針が満場一致で可決されました。

執行部を代表して挨拶にたった荻山会長は、主に「安全・組織・政策・政治」の4点について述べられ、JR産業の苦境を克服して本格回復へ攻勢に転じ、持続的成長を通じて仲間の地位の向上、幸せの実現を果たすために、JR連合の全組合員が一致団結して力強く行動していくことを力強く訴えました。

執行部より、運動方針(案)が提起され、貨物鉄産労を代表して質疑に立った辻村書記長は、「昨年末に山陽線脱線事故が起き、会社を上げて再発防止に努めている。労災においては、約130キロある軸箱が組合員の足に倒れ、全治3ヶ月の重傷を負うという、一つ間違えれば通常歩行が困難になりかねない危険な労災が起き、安全最優先を呼びかけていく。組織においては、連続して拡大が出来ており、改めて感謝申し上げるとともに引き続き取り組みを強化したい。政策については、青函共用走行問題・鉄道強靱化・アポイダルコストルール改定の大きく3点あるが、特にアポルール改定については、スムーズに進むとは考えづらく、鉄道強靱化においては、「鉄道は災害に弱い」というイメージが広がれば、荷主は離れていく。青函共用問題においては、JR北海道・JR貨物が互いにWINWINとなるよう、全ての課題において難題ではあるが、JR連合と共に取り組み克服していきたい、と発言しました。